

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870103946
法人名	(有)ベターライフ・U
事業所名	グループホーム四葉のクローバー
所在地	松山市石風呂町甲1014番1 （電話）089-952-4165
自己評価作成日	平成21年 6月 30日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成21年9月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

・特に健康には力を入れており、ラジオ体操、リハビリ体操、散歩等、身体を動かせる取り組みをしている。又、理念カードを携帯し、いつでも振り返りが出来るように努めている。
 ・食事について、季節に合った食材を（野菜、果物、山菜等）取り入れて、馴染みのあるメニュー作りをしている。
 ・職員間で意思疎通を図り、日々の生活の中でご利用者がお互いに協力しながら生活が出来るよう支援している。
 ・居住空間は、明るく清潔に過ごせる様に努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

●事業所では、何事に対しても、ありがとうという感謝の気持ちを忘れない、その思いを言葉にして伝えるように心がけておられる。職員は、毎月、ご家族に発送する便りに「利用者自身の言葉をご自身の手書きで添えるようにしよう」と提案し、全職員で取り組まれ、ご家族に喜ばれている。
 ●事業所では地震対策のために、棚に落下防止のストッパーを取り付けたり、筆筒の下に転倒防止用具を敷いたりされている。消火器も法的な数量の倍程度設置して、初期消火に備えられている。

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる （参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています （参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある （参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている （参考項目：2,20）	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている （参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている （参考項目：4）	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている （参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている （参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらい 3. 職員の1/3くらい 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：49）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている （参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらい 3. 家族等の1/3くらい 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている （参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

- 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 グループホーム四葉のクローバー

(ユニット名) 2階

記入者(管理者)

氏 名 上西 光宜

評価完了日

平成21年6月30日

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価)	
			「健康・愛情・幸福・希望」の理念に基づいて、住み慣れた環境で安心して暮して頂けるように、支援している。職員は日々意識できるよう携帯カードを持っており、ミーティングでも話し合う事がある。	
			(外部評価)	
			職員は、理念を共有すると共に、理念に添ったケアができるよう、理念を記した携帯カードをいつも身につけ確認されている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価)	
			地域の行事に招いて頂いたり、ホームの行事にも参加頂いている。玄関は、常時開放し、季節の花を植えている。散歩中に御近所の方と挨拶を交わすこともある。公園の管理をする男性も会うと気さくに声を掛けて頂く。	
			(外部評価)	
			松山夏祭りには、職員が団地の連に加わり地域の方と一緒に踊ったり、地域の盆踊りには、利用者と共に参加されている。地域ボランティアの方達が、水軍太鼓・大正琴の演奏を事業所で披露してくださった。調査訪問時、地区公民館で行われている勉強会に職員が参加されており、救急救命・薬について勉強をされていた。管理者は、地域の方から介護相談を受け、施設の紹介等もされている。	さらに地域との関係性を深めるために、職員は「地域の清掃活動にも参加したい」と話しておられた。管理者は、事業所主催で「認知症を知っていただくための研修会」等を開催したいと考えておられた。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価)	
			地域へ向けての取り組みは、現在行っていない。公民館を利用させて頂き、職員が講師となって勉強会を開いて、質問や相談に答えるような時間を持ちたいという方針ではある。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている	(自己評価) 2ヶ月に1回の開催を続けている。ご家族、地域住民の 方、市役所職員、包括支援センター、市社協の方に出 席頂き、行事の報告や、事例、研修報告を行ってい る。イベントに参加して頂く場合もあり、その都度感 想や意見を伺っている。議事録により、職員も情報を 共有している。	
			(外部評価) 運営推進会議では、地域行事の情報を得たり、事業所 の取り組みに対する意見を伺ったりされている。今年 度は、利用者の様子をさらに知っていただくことに努 められ、利用者と一緒に「そうめん流し」「運動会」 等の事業所の行事に参加していただく機会を多くして 感想をいただいた。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くように 取り組んでいる	(自己評価) 日頃は施設長が連絡を取り合って、協力関係を築いて いる。運営推進会議には、毎回参加して頂き、ホーム の取組みを伝えている。また、生活保護を受けてい る方も数名おられ、福祉課の担当者とも連絡を取り合 い、協力を得られるようになってきている。	
			(外部評価) 市の担当者には、運営推進会議以外にも「餅つき」等 の事業所の行事にも参加していただいている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正し く理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 玄関、ユニット玄関については、原則として開放され ている。「禁止の対象となる具体的な行為」について は、十分に把握できているか分からないが、一般的 なものについては、理解し、身体拘束のないケアが出来 ている。毎月のミーティング時に話し合う機会もある。	
			(外部評価) 調査訪問時、玄関は開放されており、自由に出入り できるようになっていた。管理者は、言葉による拘束が ないようにと職員に話されている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) ミーティング時に話し合ったり、外部の研修に参加し、理解を深める取り組みをしている。言葉による虐待については、「命令口調になっている」など、施設長から指摘を受ける時がある。職員同士で指摘し合い、防止できるように努めているが、今後も取り組みが必要であると感じる。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修会や、ユニットのミーティングで勉強し、情報をスタッフ間で共有するようにしているが、現在制度を活用している方がおられない。今後必要な時に説明ができるように、理解を深める必要があると思う。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時には、施設長、ケアマネージャーが出席し、主に施設長から十分な説明を行っている。緊急時の対応や、医療連携や費用については、特に入念に話し合いされているので、ご家族には納得頂いていると思う。退所時には、情報提供等の支援がなされる。質問などを受けたら、施設長に報告し、対応している。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 日々の生活の中で、ご本人とお話する際に聞いたり、面会時等には、ご家族にお聞きしている。職員間で情報を共有し、対応している。運営推進会議に、必ずご家族をお招きし、意見を聞く場を設けている。(その際には、社協の方や市役所、包括センターの方にも意見等を聞いてもらえる。) (外部評価) 利用者は、ご自分の意見をしっかり言える方も多くあり、職員は、日々の生活の中で直接聞き取るようにされている。ご家族には運営推進会議の後に一言でもご意見を出していただくように事業所からお願いをされており、「お世話になって感謝している」という感謝の言葉をよくいただくようである。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) リーダーミーティングや、ユニットのミーティングで発言したり、ユニットのノートに記入したり、自由に発言する機会は持てていると思うが、言い難いこともあると思う。	
			(外部評価) 事業所では、何事に対しても、ありがとうという感謝の気持ちを忘れない、その思いを言葉にして伝えるように心がけておられる。職員は、毎月、ご家族に発送する便りに「利用者自身の言葉をご自身の手書きで添えるようにしよう」と提案し、全職員で取組み、ご家族に喜ばれている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 労働時間や給料水準については、決められた通りである。休日希望を優先させたシフト表を配慮されている。研修や、資格取得には、前向きに取り組んでおられると思う。休憩は、ユニットで見守りしながらとなっており、リフレッシュする環境がない。	
			(外部評価)	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 研修は、積極的に参加するように勧められている。希望に応じて参加したり、個人の経験、能力に合わせた研修へ参加を指示されることもある。ユニットミーティング時に、看護職員から、人形を使って、心肺蘇生術の指導を受け、練習することもある。	
			(外部評価)	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 包括支援センターやグループホーム連絡協議会等の勉強会が定期的に行なわれ、職員も参加出来る様に取り組んでおられる。グループホームだけでなく、他の介護施設の見学も行うよう勧められる。サービスの向上につながっているかは、分からない。	
			(外部評価)	
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入居前のアセスメントシートや、その他の情報をスタッフ全員で共有している。御入居後も御本人の希望や、困っている事等をお聞きし、職員全員で対処して、安心して生活出来るよう取り組んでいる。	
			(外部評価)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 面会時には、必ずご家族と様子について話し合う時間を持ち、毎月のメッセージカードにて近況を報告したり、些細な事でも報告・相談して、ご家族と協力して支援できる信頼関係の構築に努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) アセスメントシートを読み込んだり、ご本人やご家族の希望・困っている事をお聞きし、必要な支援を見極めている。(できること・できないことシートを活用)当ホームで対応できない支援については、他の事業所を紹介する事も出来る。(主に施設長対応)	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) ご本人の希望や能力、その時の心身状況等を考慮しながら、出来る事やしたいことを共にやっている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 入居当初は、早くホームの生活に慣れるためにもご家族の協力が必要である事を御理解、御協力頂いている。その後もご本人とご家族の思いを聞きながら、良い関係が保てるように、支援しているが、利用者によっては、ケアプランの更新時にしかお目にかかれないうご家族もおられる。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) ご家族や親族との関係の維持が主である。信仰の関係で1年に1回ほど尋ねてこられる方もある。友人、知人との交流は、途絶えがちである。電話や、手紙の支援など、出来ることは取り組んで、関係の継続に努めたい。 (外部評価) 調査訪問時、利用者を尋ねて来られたお友達と居室でお話しされている様子が伺えた。帰られる際に「また来て」「また来るね」等の会話も聞かれ、職員も「また来てくださいね」と言葉を添えられていた。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) テーブル席の席替を時折行うことにより、居心地が良くなるように配慮している。口論が続く時には、職員が間に入り、緩和に努めている。食事やおやつ時には、共通の話題を提供するよう、配慮している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 主に施設長が退居後のフォローに当たっている。退居後も1ヶ月は月末のメッセージを送って、関係が直ぐに途絶えないように努めている。	
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々の生活、会話の中でご本人の希望や思いを汲み取るように努めている。ご家族からご本人の思いをお聞きする事もある。気付いた事については、申し送りや、ミーティングで話し合い情報を共有している。	
			(外部評価) 日々の生活の中で、利用者が「したい事・いやな事」を聞き取っておられる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居時のアセスメントシートや、診療情報提供書、また、ご本人やご家族の話をお聞きして、どのような生活をされていたのか把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 毎日の支援の中で、利用者様の表情や、言葉に注意を払って、心身の状態把握に努めている。散歩や、体操、入浴等は、バイタルサインを必ず参考にし、様子に合わせて行っている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 居室担当者が、ご本人、ご家族の要望などを把握し、ミーティング時に他の職員やケアマネージャーと共に、その人らしく生活して頂くために必要なケアについて話し合い、介護計画を作成している。ご利用者の様子の変化があれば、ご家族と共にその都度検討し、その時に必要な介護計画を作成する。	
			(外部評価) 利用者・ご家族の希望や思いを大切に、介護計画を立てておられる。ご家族からの希望でご本人のやりがいや役割、生きがいを見つけていただくために食事作りを計画に採り入れた事例もある。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日誌、日報、申し送りノートの記録をし、重要な情報は、口頭でも伝えている。提案事項についてのノートもあり、情報の共有、検討が出来て、全員が意見を出し合えるので、より良い支援や、見直しに役立っている。日誌については、介護計画に沿っていない場面もあり、これからの課題となると思う。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) ご本人、ご家族の要望に合わせて、ホームで出来るサービスを提供している。必要に応じて、人員を増やし、柔軟に対応している。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) ボランティアの訪問で、音楽を楽しんだり、工作やアロマセラピーを受け、リラックスされることもある。安全に関しては、行方不明時の捜索願いをする際に警察署の方に協力して頂ける様に図っている。又、消防署の署員の方に来て頂いて、消防訓練を行っており、ご利用者も避難訓練に参加されている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) ご利用者全員が居宅療養管理指導サービスを受けており、主治医の定期往診を受けている。必要に応じて他の専門医を紹介され、紹介状や医療情報提供書を作成頂いている。ご家族や利用者様の希望する医療機関受診時と同じである。基本的に受診はご家族対応で、受診内容は受診記録により、情報を共有している。	
			(外部評価) 1週間に1回かかりつけ医が往診に来てくださっており、いつでも相談できるようになっている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) 毎日のバイタルチェックや排尿、排便のチェックなどの記録シートを作成しており、ご利用者の身体状況の把握に努めている。変化に気付いたときは、看護職に報告し、指示を貰ったり、主治医への報告、相談をしてから指示を貰う事もある。気軽に相談できる関係である。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 主に施設長と看護職員が医療機関との情報交換や相談に努めており、必要な時に迅速に対応できるよう、日頃から関係作りに努めている。現場の職員にもその都度情報を伝えて、入退院時の対応に当たっている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 日頃から、ご家族に理解頂けるように努めている。急変時の対応についてご家族の同意書を頂いているが、ご家族の希望は随時お聞きする。重度化等で、当ホームでの対応が困難な場合は、適切な対応の出来る他施設、医療機関などの情報を提供出来るように、関係作りに取り組んでいる。	
			(外部評価) 事業所では、入居時に看取りの指針を示し、利用者ご家族に事業者が支援できることを話されている。「ここに最期までいたい」と希望される利用者もあり、事業所の指針に基づき、「職員で出来る限りの支援をしていこう」と話し合っておられる。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○ 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 急変時のマニュアルを作成し、いつでも見れるように備えている。ミーティング時には、看護職員により、毎回テーマを決めて、症状に応じた応急処置をシミュレーションし、実践力を付ける取り組みをしている。その中で、心肺蘇生術の訓練も人形を使って全職員納得するまで行った。今後も続けて取り組みたい。	
35	13	○ 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) マニュアルを作成し、ご利用者と共に避難訓練を行っている。消防署の協力もあり、耐震車による地震体験や、消火器による消化訓練も合わせて行っている。地域の方へは、運営推進会議を通じて協力をお願いしている。 (外部評価) 事業所では地震対策のために、棚に落下防止のストッパーを取り付けたり、箆笥の下に転倒防止用具を敷いたりされている。消火器も法的な数量の倍程度設置して、初期消火に備えられている。	代表者は、今後、夜間の災害に備え、一人体制での避難訓練も計画したいと話しておられた。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○ 一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 個人的なことについては、居室で話し合うように努めている。トイレ介助時の声掛けの、声の大きさなど配慮したい。言葉掛けが、「強い口調になったり、命令口調となっている」と施設長から指摘があるので、今後も課題として、取り組みしたい。居室の入口の暖簾は、継続して使用している。 (外部評価) 調査訪問時、職員は利用者に「もう少し足を上げてみますか」等、やさしく声かけをしながら手をつなぎ、一緒に体操をされていた。事務室で利用者の名前を表示する時は、プライバシーに配慮して、部屋番号やイニシャルで示すようにされている。	
37		○ 利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 日頃から、希望を言い出し易い環境を目指してコミュニケーションを取る様に努めている。その人にあわせて、出来る範囲で取り組んでいる。ご利用者によっては、「なんでもいいよ。」「どっちでもいい。」と言われる方も居られ、声掛けに工夫したい。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 1日の生活のリズムは、職員側で調整している。一人ひとりの希望、ペースを全て優先させる事は、共同生活上、無理である。しかし「その中で」ではあるが、ご自分の気分や体調に合わせて、居室、リビングを好きに使って過ごされている。工作やレクも声掛けし、希望者で行い、無理強いはいないように努めている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 殆どの方が、ご自分で着る服を選んでおられる。同じ服を続けて着る方には、入浴時などを利用し声掛けし、替えられる。裾から、下着が出ていたり、季節外れ等の時は、職員がさりげなく支援している。理美容については、訪問の美容師や、職員、ご家族が行っている。お化粧をされる方もおられる。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 出来る範囲で、出来る方に下準備、配膳、下膳、台拭き、食器拭きなど、参加される。食べやすい様に、荒刻みでお出ししたり、アレルギーのある食材の時は、その分だけ代替メニューをお出ししている。行事食や、旬の食材を取り入れて、季節感を感じて頂いたり、誕生日のケーキなど、楽しんで頂いている。 (外部評価) 事業所で食事作りをされており週3回は管理栄養士の指導のもと食事作りされており、週4回は利用者の希望をうかがいながら季節感のあるメニューを決め手作りされている。利用者・職員と一緒に一つのテーブルを囲み、「この秋茄子は畑で取れたものよ」「採れたては美味しいね」「次は芋ほりね」等、系列グループホームでの収穫時のお話等を楽しみながら食事をされていた。食後、利用者はそれぞれに下膳をされていた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 週に3回配食サービスから食材を取り、バランスの偏らないメニューとなっている。Drの指示でカロリー、水分の摂取量が決められている方も居り調整している。又、その他の方は体格、健康状態に応じたご飯の量、水分摂取量となっている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 朝、夕食後は口腔ケアされているが、昼食後はされていない方も居られ、声掛けし、して頂くよう取り組んでいる。習慣になるよう、今後も取り組みたい。又、週1回ポリデントで義歯を消毒し、清潔にしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価)	
			御入居時、紙パンツを使用して居られた方で布パンツにされた方も居り、その時々に応じた下着を履かれている。又、一人ひとりの能力により、見守り、誘導、ズボンの上げ下げ等の支援を行なっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(外部評価)	
			失禁等の対処のために紙パンツやパットを使われている方もおられるが、職員は排泄の記録に沿って、声かけをされている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価)	
			毎朝、ヨーグルトをお出ししている。又、水分補給時には牛乳でカフェオレを作りお出ししている。毎日の体操、散歩等、適度な運動に取り組んでいる。それでも便秘の方は居られ、主治医に相談し、その方に合った下剤を処方頂き、排便コントロールしている。	
46		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(外部評価)	
			スタッフの勤務の都合で、曜日、時間帯が決まっている。入浴拒否、体調により、入れなかった時は日を変えて入って頂いている。	
47		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価)	
			利用者は入浴がお好きな方が多く、ゆっくりと入浴していただくために、職員の多い時間帯に入浴することを勧めておられる。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(外部評価)	
			日中は出来るだけ活動して頂き、夜は良眠出来るように支援している。夜間は定時に巡視し、安心して休んで頂いている。又、日中横になりたい時は自由に居室で横になり休まれている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 一人ひとりの処方箋をよく読み込み理解するように努めている。又、日々の状態変化を細かく記録に残し、看護師、主治医に報告している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 洗濯物畳み、調理の下ごしらえ、台拭き等、一人ひとりの出来る能力に応じた役割を持たれている。楽しみごとでは、カラオケ、塗り絵等、各自好きな事をされている。マンネリにならない様に今後も取り組みたい。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 天気の良い日は1日1回全員散歩に出て頂くように取り組んでいる。 外出はホームの行事で普段行けない所へ出かけている。又、御家族との外出等はいつでも行けるようにしている。 盆踊り等は地域の方も快く受け入れて頂いている。 (外部評価) 利用者は、いちご狩りやさつき展・夜市・釣堀・キックボクシング等を楽しみに、職員と一緒に出かけられる。今月はぶどう狩りに出かける予定となっていた。又、近所の店に食材や電池・菓子・お部屋の仏壇に供えるしきび等を買いに外かけておられる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) ホームで管理している方が殆どである。ご自分で管理されている方はスタッフの食材の買い物に同行し、好きな雑誌や、飲み物を購入されている。所持されているだけの方もおられる。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 御家族、知人等へ連絡を取りたい方は事務所の電話を使い連絡を取られている。又、携帯電話を持たれている方も居り、自由に電話されている。手紙については現在希望者はいないが希望があれば取り組みしたい。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 玄関先や外庭、リビングには、季節の花を植えたり、飾ったりして、季節感を味わって頂いている。テレビの音は一定の音量で調整している。光については、カーテンや電灯で調整している。年間を通じて換気には気を付けており、空気の流れや臭いに注意して、居心地良く過ごして頂ける様に努めている。 (外部評価) 利用者は、ソファに腰掛けてテレビを見たり、テーブルを囲んでお話しをされる等、思い思いに過ごされている。テレビに日差しが反射するのを防ぐために、カーテンをそっと引く職員の様子が伺えた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) ソファやテーブル席は自由であるが、ご自分の落ち着く場所を持っている方もおられる。くつろいでテレビを観たり、自由に雑誌や新聞を読んだり、工作を気の合った方同士で楽しんだり、思い思いの場所を作られており、自由に過ごされている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) ベッドやタンスは、ホームの物を使用されている。仏壇や衣装ケース、飾り棚を持ち込みされたり、備え付けのボードに家族の写真や、工作された物を自由に飾られている。限られた広さの中で、希望に沿ってレイアウトを変える場合もある。 (外部評価) 居室の入り口には、それぞれにお気に入りの暖簾が掛けられており、ご自分の部屋を間違わないように工夫されている。フラワーセラピー時にご自分で作った花かごを飾っておられたり、お孫さんやお友達からもらった折り紙で折った、鶴やかえるを飾っておられる方もいた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 必要な箇所には、手摺りが設置してあり、玄関のベンチなど安全に生活して頂けるように工夫されている。洗面所は、車椅子の方も使用できる設計となっている。職員は、ご利用者が、自立した生活が出来るような支援を心掛けている。洗濯物畳みなどは、能力に合わせて声掛けしている。	